

2021年11月24日

〈ニュースリリース〉

サントリーホールディングス株式会社
サントリー食品インターナショナル株式会社

首都圏の物流新拠点 「浦和美園配送センター」稼働

- 首都圏の物流体制の更なる強化 —
- 最先端のDX施策でスマートロジスティクス推進 —
- さいたま市SDGs企業認証制度※1取得を目指す —



この高解像度画像は <https://www.suntory.co.jp/news/index.html> に掲載しています。

サントリーMONOZUKURIエキスパート（株）は新しい物流拠点「浦和美園配送センター」を11月から稼働しました。

人手不足、働き方改革への取り組み、さらなる物量の増加など、物流をとりまく環境は大きく変化しており、持続可能な物流への取り組みは、大変重要な課題となっています。当社はこれまでも、安全・安心な物流の実現に加え、先端技術を活用し、物流業務の自動化・省力化による労働負荷軽減、作業効率化、環境負荷の低減などを実現する「スマートロジスティクス」に取り組んできました。

「浦和美園配送センター」の稼働により、これまで複数箇所に分散していた倉庫機能を本倉庫に統合集約し、在庫配置や倉庫間移動の効率化を図り、環境負荷低減を推進します。

本センターではデジタルトランスフォーメーション（DX）施策として、在庫管理システムを基軸に各種業務システム間で情報を連携し、乗務員・倉庫荷役の負荷軽減と省力化を図っています。なかでも自動運転フォークリフト（Automated Guided Forklift、以下AGF）とコンベアを組み合わせたシステム^{※2}では、AGF専用のエリアを設け人との接触を回避し、安全を確保しながら、有人の作業同等のパフォーマンスを実現。AGFエリアにおいては有人の作業を想定した場合と比較し、工数を約30%削減できる見込みです。

他にも無人受付システムやバース予約システム、AI技術を搭載した仕組み^{※3}などを導入しており、全体では従来の技術を導入した場合と比較し、工数を約15%削減できる見込みです。

また本センターでは、DX施策による省力化に加え、フォークリフトにリチウムイオン電池・再生可能バッテリーを活用するなど、温室効果ガス排出量削減にも取り組み、現在、さいたま市SDGs企業認証制度の取得を目指しています。

サントリーグループは、今後も持続可能な物流の実現に向けて、物流最適化・環境負荷低減・働き方改革の推進などのさらなる取り組みを、パートナー企業・地域行政との連携を深めながら進めていきます。

※1 SDGsの理念を尊重しながら、経済・社会・環境の3つの分野を意識した経営活動を推進する市内企業を、さいたま市が認証する制度

※2 （株）豊田自動織機と物流子会社のサントリーロジスティクス（株）が共同設計。
現在サントリーホールディングス（株）から特許出願中

※3 富士通（株）とサントリーロジスティクス（株）が共同開発。
現在富士通（株）とサントリーホールディングス（株）が連名で特許出願中

名称	浦和美園配送センター
所在地	〒336-0967 埼玉県さいたま市緑区美園1-14
延床面積	約1万2千坪（約4万m ² ・5階建倉庫の3～5階）
竣工・稼働開始	2021年11月
取り扱い商品	清涼飲料、酒類各種、他
業務委託先	サントリーロジスティクス（株）

▼サントリーのエコ活 輸送

<https://www.suntory.co.jp/eco/teigen/logistics/>

▼サントリー 安全に配慮した物流の推進

<https://www.suntory.co.jp/company/csr/activity/service/safety/>

▽本件に関するお問い合わせ先

サントリーホームページ <https://www.suntory.co.jp/>

以 上

水と生きる SUNTORY

「水と生きる」は、私たちがお客様や社会と交わす約束です。
貴重な水を守り、水を育む自然環境を次世代につなぐこと。商品やサービスを通じて人々の心を潤すこと。
水のように柔軟に力強く新たな価値創造に挑戦すること。
これらの約束を果たすため、私たちは様々な活動に取り組んでいます。